

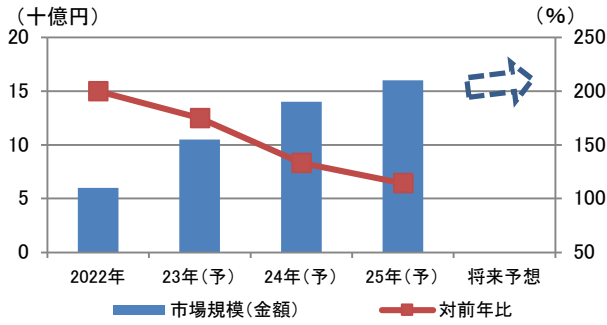
業界アウトライン

・厚生労働省では、「データヘルス改革推進本部」を立ち上げて、健康・医療・介護のデータの有機的な連結に向けた「ICT インフラの抜本改革」、「ゲノム解析やAI等の最先端技術の医療への導入」の具体化を始めている。

注目市場

スリープテック市場

スリープテック市場 市場規模推移



※出典 矢野経済研究所

■市場環境

- ・2023年のスリープテック市場規模は、105億円（対前年比175.0%）と見込まれる。
- ・スリープテックとは、センサーやアプリなどのIT・AI技術を活用し、生体活動データを収集することにより、睡眠を評価した上で、睡眠の改善を目指す装置、システム、サービスである。
- ・同市場は、ヘルスケア、寝具・電機・機械メーカーに加え、大学発のスタートアップ企業など、様々な産業からの参入がみられる。

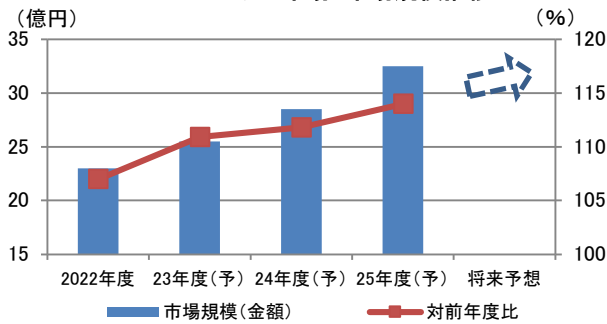
■業界動向／事業者動向

- ・同市場は、ウェアラブルデバイスの普及により、自身の睡眠状態を簡単に把握できるようになったことで注目され始めた。市場立ち上がり当初から各事業者で睡眠計測アプリケーション、専用デバイス等が展開され、直近では法人向けサービス及び生活習慣改善などのソリューションへとシフトしている。
- ・事業者においては、健康経営サービスの一環として、AI活用や専門家によるアドバイスなど睡眠改善に向けた介入方法を工夫した法人向けサービスが増加しているほか、様々な業種の事業者を複数社巻き込みながら、新たな製品・サービスの開発を目指すプラットフォームを形成する動きもみられる。

注目市場

ePRO（電子的患者報告アウトカム）システム市場

ePROシステム市場 市場規模推移



※出典 矢野経済研究所

■市場環境

- ・2023年度のePROシステム市場規模は、25億5000万円（対前年比110.9%）と見込まれる。
- ・PROとは、臨床医など誰の解釈も介さず、患者自身から直接伝えられるその患者のあらゆる健康状態のことであり、ePROとは、臨床試験などにおいてスマートフォン等により報告されるPROを指す。
- ・同市場は、高単価な治験関連の内訳が高いなど、金額ベースの大半は製薬企業向け案件とみられる。

■業界動向／事業者動向

- ・ePROシステムの用途は、大別すると臨床研究・治験や健康食品などの商品開発、実臨床での使用がある。ePROシステムの活用により、入力負担軽減やデータ管理の容易化などが期待できることから、近年では、製薬企業やアカデミアなどによる利用に加え、食品企業によるePROの利用も増加傾向にある。
- ・同市場は、PRO自体の活用の伸長と、PROの電子的取得（ePROシステム活用）の伸長を背景に、市場成長率が今後高まると見込まれる。参入事業者においても、様々な事業者がePRO展開を本格化しており、治験関連事業者のほか、PHRサービス事業者による展開が今後増加する可能性がある。